

トキペレットの改良について

1. 背景と試験の概要

タンパク質・脂質の割合を従来品より下げた試作品のトキ用ペレット（トキEP）について、2012年1月から4月までの3か月間、トキ7羽・近縁種9羽の採食試験を実施した。その結果、試験個体は体重・血液性状ともに異常は認められず、健康を保ち、また、トキにおいては従来品と同等以上の嗜好性が確認できた。トキについては、その3ヶ月後にも血液検査を実施したが、健康状態に著変はなかった。

2. 対応方針

トキEPは製造工程上、最低ロットが2t（製品量で1.5t）となっており、従来品と試作品の両方を平行して製造・供給することはできない。このため、1の試験結果を踏まえ、次回製造ロットから、試作品の組成に切り替える。

一方で、近縁種の供試個体は狭いケージに隔離されていたこと、トキの供試個体にペアが含まれておらず繁殖への影響が不明であることから、ともに多数の在庫が残る従来品と試作品のペレットを活用しながら給餌試験を継続し、問題が生じれば従来品に再度切り替えることも視野に入れつつ、通常飼育状態でのトキ近縁種への安全性及びトキへの繁殖への影響等の確認を長期給餌により確認するものとする。

3. 具体的な方針案

(1) トキ給餌試験

育雛期間中を除き、一定期間、試作品ペレットを給餌する試験群を設け、繁殖に支障がないかどうか確認※する（多摩動物公園）。

他のトキ分散飼育地においても、各飼育地の実情に応じて従来ペレットと試作品ペレットを併用した給与試験を実施する。

※捕獲による体重測定・血液検査等を行わず、目視と繁殖成績による評価とする。

※1年間の実施を予定する

(2) 近縁種等での試験を継続

通常飼育ケージの状態、現行品を試行品に変更し、嗜好性と健康状態を確認※する。

(多摩の場合、約120羽で6kg/日)

※捕獲による体重測定・血液検査等を行わない)

※2012年10月から開始、2013年9月までを予定。

※群に何らかの異常がみられた場合には給与を中止する。

※各分散飼育地で、トキ近縁種の飼育をしている場所においても給与試験が可能な場合は、試作品を送付する。

※トキEPは、トキ近縁種だけでなく、食性の似ている他の鳥種でも使用されており、人工育雛においても需要が高い。